

75歳以上医療費

2割化「重い」8割超

長野県民医連が調査報告



調査結果を報告する岩須氏（左から2人目）ら長野県民医連の出席者。23日、長野県庁。

長野県民主医療機関連合会は23日、県庁で記者会見し、2022年10月に施行した75歳以上の医療費2割化についての調査結果を報告し、負担増を重く感じる回答が合計で8割を超すことなどを明らかにしました。

調査は昨年11月～今年2月末、県民医連事業所のうち病院・診療所・歯科・薬局の患者を対象に実施。75歳以上の回答者は1280人で、昨年10月から医療費の負担が1割から2割に増えた回答者は402人でした。医療費が増えた負担感について、「とても重い」の回答は111人、「重い」は212人。合計323人（80・3%）で「普通」（62人、15・4%）の5倍以上でした。

負担増の影響について（複数回答）は「受診をためらうようになった」（86人）、「受診回数を減らす」（60人）などが上位に。2025年9月まで負担増加額を1カ月3000円までに抑える配慮措置について（複数回答）、「手続きしていない」は225人、「手続きの仕方がわからない」が107人でした。

アンケートには年金を減額された、がん患者の「病院へは通院できなくなると思う。こゝろすのか」などの悲痛な声も寄せられました。

調査結果について岩須靖弘事務局長は、医療費2割化が「予想以上に、高齢者の生活と健康に深刻な影響を及ぼしている」と述べました。県民医連として「窓口負担2割化の撤回を求めるとしました。

回「配慮措置の周知・発表し、国や県に対応を求めるとしました。